

指標名: 公共投資の動向(2013年12月)

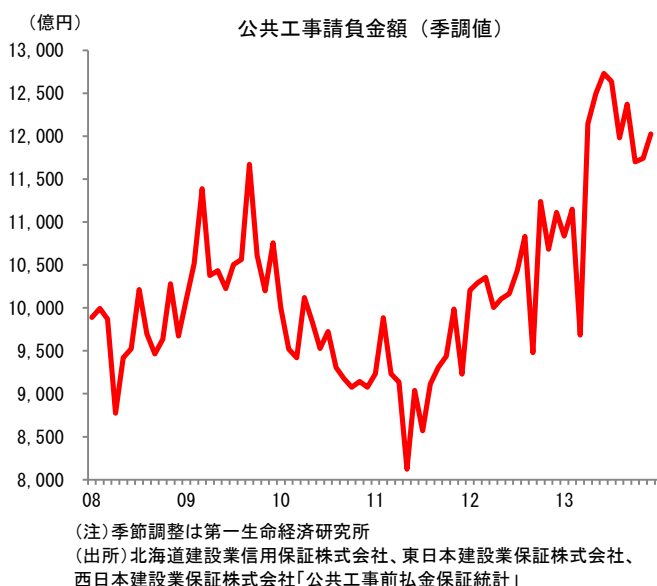
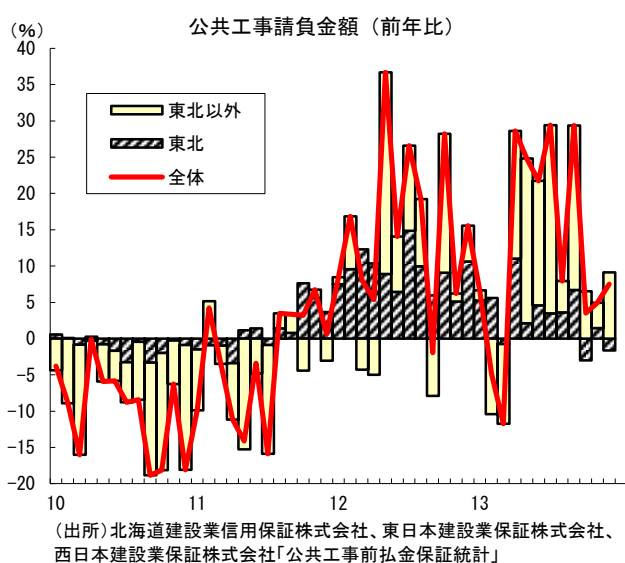
発表日2014年1月17日(金)

～昨年2月策定の緊急経済対策の効果は息切れ～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 大塚 崇広  
TEL : 03-5221-4525

## ○緊急経済対策の押し上げ効果はピークアウト

公共事業の発注段階の動向を示す統計である公共工事前払金保証統計によると、2013年12月の公共工事請負金額は前年比+7.5%（11月：同+4.9%）と増加幅が拡大した。内訳をみると、東北が前年比マイナスに転じたものの、東北以外の伸び幅が拡大している。当社作成の季節調整値でも、前月比+2.4%（11月：同+0.3%）と2ヶ月連続の増加となった。ただし、均してみれば、6月をピークに軟調な推移が続いている状況に変わりはない。昨年2月に成立した緊急経済対策の押し上げ効果は弱まっている。



## ○出来高は増加が続いているものの、勢いは鈍化

国土交通省から発表された建設総合統計では、2013年11月の公共工事出来高は前年比+24.2%（10月：同+25.6%）となった。前年比で高い伸びが続いているものの、前年比伸び幅の拡大は一服している。

公共工事出来高は工事の進捗段階の動向を表す統計であり、GDP統計における公的固定資本形成の基礎統計にもなっている。7-9月期GDPにおける公共投資は前期比で高い伸びとなったが、10-12月期は緊急経済対策効果の息切れを背景に勢いを落とすことが予想される。その後も経済対策の押し上げ効果の減衰が続くものの、13年度補正予算の効果が14年4-6月期以降に顕在化することで、公共投資は高水準を維持する見込みだ。補正予算により公共投資の減少が抑えられることで、14年度の景気後退リスクは低下することとなる。

もっとも、以上の見方はあくまで統計上のものである。前回のレポートでも指摘した通り、実際には人手不足等の影響で公共投資が予想される程進捗しない（13年度前半もさほど進捗していなかった）可能性があることには注意が必要だ。

公共工事出来高(前年比、%)



(出所)国土交通省「建設総合統計」